

国語科学習指導案

日 時 6月21日(火) 5校時
授業者 高橋 暖

- ・思考力・判断力・表現力等の言語活動の充実との関連 ④
- ・言語の役割を踏まえた分類 (1) ア

1 単元名 文章に「チャプター (chapter)」を作ろう

2 単元の目標

(1) 筆者の説明の仕方の特徴を読み取ろうとする。

【国語への興味・関心・意欲】

(2) 「チャプター (chapter)」を作るという言語活動を通して、筆者の思考過程に沿い、展開していく文章の構成を読み取り、その特徴を考えることができる。【読む能力】

(3) 目的に応じて、適切な文章の形態や展開があることを理解することができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

3 評価規準：

国語への関心・意欲・態度	読む能力	伝統的な言語文化と国語の特質による事項
筆者の説明の仕方の特徴を読み取ろうとしている。	筆者の思考過程に沿い、展開していく文章の構成を読み取り、その特徴を考えている。	目的に応じて、適切な文章の形態や展開があることを理解している。

4 単元について

(1) 単元を貫く言語活動と扱う教材

本単元では、文章のまとめ「チャプター (chapter)」とその名前を考え、既習の説明的な文章と比較するという言語活動を行う。これは、学習指導要領〔第2学年〕の「C 読むこと」における(1)指導事項「ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えをまとめること。」(2)言語活動例「イ 説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の意見を述べること。」を踏まえている。

生徒はこれまで、文章の構成(序論-本論-結論)を考えたり、図やグラフなどのテキストと文章を対比させながら内容理解を図ったりしながら、説明的な文章を学習してきた。本

単元では、佐藤克文の「生物が記録する科学ーバイオロギングの可能性」(光村、2年)の教材を使用し、文章の区切れ「チャプター (chapter)」とそのチャプター名を考えるという活動を行う。本教材の構成に着目しその効果を考えやすくするため、既習の説明的な文章「シカの『落ち穂拾い』ーフィールドノートの記録から」の小見出しと比較する。「シカの『落ち穂拾い』」では、「観察のきっかけ」や「考察」などの形式的なことを小見出しとしており、「観察ー仮説ー検証ー考察」という仮説検証型の文章となっている。これらの項目が直線的なものであるのに対し、「生物が記録する科学」では、「意見(筆者の疑問)」に対して「事実(調査結果)」を述べ、さらにその「事実(調査結果)」から新たな「意見(疑問)」と「意見-事実-意見」が繰り返される螺旋的な文章展開である。これは本教材が、仮説検証型ではなく仮説生成型であるからだ。

また、「観察ー疑問-観察」という展開は、筆者の思考過程を中心に書かれており、第一学年で学習した「大根は大きな根?」「シカの『落ち穂拾い』」「流氷と私たちの暮らし」などの説明的な文章よりもストーリー性を帯びた文章となっている。そのことで、読者が筆者と同じような思考過程を追体験でき、内容理解を促す効果があると考えられる。文章のまとまりを考える際に、「小見出し」ではなく「チャプター」という用語を使用しているのも、文章の展開を「一つの場面」と捉えやすくするためである。

はじめに本単元を展開にするにあたり、すぐに本教材をチャプターに分け、名前をつけるという学習活動は展開学級において難しいと考え、「シカの『落ち穂拾い』」の形式的な小見出しに、内容的な小見出しを付加したものを提示し、生徒に学習の見通しをもたせる。その後、本教材のチャプター分けを個人で行い、形式的なものと同義的なもの名前を考えていく。十分な時間を確保した後、4~5人のグループに分けて話し合い、意見を統合していく。グループで話し合うことで、友達との感じ方の違いや、自分が気づけなかった表現の工夫に気づくことになるであろうし、少人数であれば意見も出しやすく、活発な意見交流ができるようになる。話し合ったことを学級全体に広げ深めるとともに、比べる観点を整理していく。

次に、グループごとに出てきたチャプター名と「シカの『落ち穂拾い』」の小見出しを比較しながら、本教材の論理展開の特徴を考える。この学習活動もグループでの話し合いを経て、学級全体へと広げ深めていく。学習の最後には、文章の構成の違いをまとめ、生徒の説明的な文章に対する理解の深化を図りたい。

(2) 本単元で身に付けさせたい力

本単元で育成を図る能力は、「文章の内容や表現の仕方に注意して読む能力」である。そこで、C「読むこと」の領域におけるウ「文章の構成や展開、表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えをまとめること。」が指導事項に該当する。関連する言語活動例としては、C「読むこと」②言語活動例(2)イ「説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の意見を述べること。」がこれにあたり、この言語活動例を主軸として授業を展開する。本単元の第4時には、生徒が文章のまとまり「チャプター (chapter)」を考え

る場面を設定する。チャプターを考える際に、「シカの『落ち穂拾い』」に見られる「観察のきっかけ」や「考察」など形式的、科学的な見出しと読者の目を引くような工夫された見出しの両方を考える活動をさせたい。その両方を考えることにより、より構造的に文章を読み込め、内容理解も深まると考える。

文章全体を俯瞰的に読むことは、文章の内容理解をするうえでとても重要な能力であると考え。そのために構成を比較し、その効果を考える学習はその支柱を担うと考える。筆者の論理展開に気づき、その効果を考えることは「価値づけ」や「評価・批評」にもつながる大事な学習活動であると考え。また、目標としている能力を育成することで、生徒たちの表現のサンプルとして自己の表現活動にも影響を及ぼすことが期待できると考える。

(3) (1)(2)の基盤となる言語環境や継続的な取組

他教科において、授業の感想や意見を述べたり、社会科の新聞づくりや理科のレポートに見られる説明文・報告文の作成であったりと事実をもとに論を展開していく場面は、学校における教育活動上ではさまざまである。本単元で学習したことを踏まえ、相手や状況に合わせて構成を判断して書けるようにしていく。

また、展開学級においては朝の学級活動で、日直が今日のニュースとそれについての感想や意見、疑問を述べる場面を毎朝設定している。聞いた事実に対して、新たな疑問や意見が生まれる場面を多く設定することで、学習した内容を想起させていく。

5 生徒の実態

本学級の生徒は、比較的落ち着いて学習に臨んでいる生徒がほとんどである。しかし、学習意欲と学力に差があり、集中して授業に臨めない生徒や板書をノートに書き写すことが困難な生徒もいる。基礎的・基本的な学習習慣が身につけておらず、そのことがさらに学習意欲の低下につながっていると考える。

また、男子生徒と女子生徒において、学力に差がある。今年度4月に本校で実施された千葉県標準学力調査の結果から、本学年(165名)の国語の平均正答率と全県の正答率を比較したとき、「読む能力」の項目がほかのどの項目よりも下回っていた。さらに、展開学級において事前に行ったアンケートを行った(結果別紙参照)。

アンケート結果を見ると、7割以上の生徒が説明的文章をどういった文章かは理解していることがわかる。また質問番号2-3「文章中における筆者の『意見』と『事実』を読み分ける。」や2-4「文章の構成について『序論-本論-結論』を読み分けて、とらえる。」の、アンケート結果から「意見や事実」や「序論-本論-結論」などの用語は生徒に定着していることがわかる。しかし、2-2「文章の『中心的な部分』と『付加的な部分』を考えて読み分けて、とらえる。」や2-4「文章の構成について、その特徴や効果について意見や感想を述べる。」の結果から、本論をさらに細分化したり、構成の特徴を考えたりする活動はあまり定着していないと判断できる。

今回の単元では、文章の内容理解だけに重点を置くのではなく、構成的な部分に着目して学習することで他の説明的な文章の読解や自己表現にも生かしていけるようにしていきたい。

6 単元の指導計画（5時間扱い）

時	学習活動と内容	指導や支援の手立て ◇評価
1	<p>○「バイオロギング」について知り、学習に向かう態度を整える。</p> <p>○「生物が記録する科学」を通読する。</p> <p>○単元の学習目標を確認し見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>文章に「チャプター (chapter)」を作ろう</p> </div>	<p>・生徒が本文の内容に関心が持てるように、映像資料を用いる。</p> <p>・本文をより理解しやすくするために、チャプターに分け、名前をつけることを伝える。</p>
2	<p>○「シカの『落ち穂拾い』」を使用し、「チャプター」の分け方や名前の付け方を学習する。</p> <p>○個人でチャプターに分けて、名前を考える。</p>	<p>・「チャプター (chapter)」の意味や、日常生活で「チャプター」という言葉が用いられているものを想起させる。</p> <p>・生徒が学習の見通しをもてるように、あらかじめ作成した資料を提示する。</p> <p>・「チャプター」に分ける際、「調査」と「結果」の記述に着目させ、それらが一まとまりであることを助言する。</p> <p>・チャプター名が思いつかない生徒のために、科学的な読み物を教室に準備しておく。</p> <p>◇記述をもとに、観察や実験のまとまりごとにチャプター分けをしている。 (読むこと)</p>

3 ・ 4	<p>○グループに分かれて、文章をいくつかのチャプターに分けて名前を付ける。</p> <p>○グループでまとめたことをもとに、チャプターごとのパネルを作成する。</p>	<p>・5～6人のグループにして、話し合いがしやすい状況を設定する。</p> <p>◇記述をもとに、チャプターの分け方や名前の付け方について、話し合いながら自分の考えを広げたり深めたりする。(関心・意欲・態度)</p>
5 本 時	<p>○作成したパネルや掲示を見て、「シカの『落ち穂拾い』」との違いを考える。 (個人→グループ→全体)</p>	<p>・用紙にチャプター名を書き、掲示することで学級内の意見を互いに交流できる場を設定する。</p> <p>・「シカの『落ち穂拾い』」の小見出しと自分たちの作成したものを見比べることで、論理展開の違いに着目するよう助言する。</p> <p>◇筆者の論理展開の特徴を理解し、自分の考えをもてる。(読むこと)</p> <p>◇目的に応じて、様々な論理展開の工夫があることを理解する。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)</p>
6	<p>○説明的な文章を書く際の様々な論理展開と工夫をまとめる。</p>	<p>・本単元を含め、既習した事項の論理展開の種類、図や写真を用いる効果を踏まえて考えてまとめるように助言する。</p>

7 本時の目標と展開

(1) 本時の目標

①筆者の説明の仕方の特徴を読み取ろうとする。

【国語への関心・意欲・態度】

②調査の過程で、新たに疑問が生み出されていくという論理展開に気づくことができる。

【読むこと (1) ウ】

③文章を比較し、それぞれの構成の違いを理解することができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1) イ (オ)】

(2) 本時の学習活動

本時は、「生物の記録する科学」をいくつかのまとまりに分け、形式的な小見出しと意味的な小見出しの二つをグループごとに考えていく。グループで出た意見をもとに、「シカの『落ち穂拾い』』と比較し、筆者の論理展開の工夫を読み取っていく。

(3) 本時の展開

時配	主な学習活動と内容	指導や支援の手立て (◇は評価)
導入 5分	○本時の学習目標を確認し、学習活動の見通しをもつ。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> チAPTER・パネルをもとに、論理展開の特徴を読み取ろう </div> ○前時までの学習を振り返る。	
展開① 20分	○各グループのCHAPTER・パネルを見比べ、共通していることを考えて発表する。 (グループ→全体)	・各グループで話し合ったことを学級全体に広げるとともに、それぞれの分け方が理解しやすいように黒板に掲示する。
展開② 20分	○筆者の文章の展開の特徴を考え、発表する。 (個人→グループ→全体)	・「シカの『落ち穂拾い』』と自分たちの意見を比較し、相違点について考えればよいことを助言する。 ◇事実と意見を繰り返しながら論を展開していく文章の構成を読み取ろうとする。(ノート、話し合い、発表) (国語への関心・意欲・態度) ◇「意見→事実→意見」という論理展開

		を読みとることができる。(ノート、話し合い、発表) (読むこと)
まとめ 5分	○「今日のまとめ」をノートに記入し、次時の学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返り、新たに学習したことを確認し、目標を達成できたか自己評価をするように助言する。 ◇本時の目標に対しての到達度を、自己評価できる。(ノート) (国語への関心・意欲・態度)

(3) 参考文献・ワークシート等

- ・ 中学校学習指導要領解説 国語編
- ・ 小学校学習指導要領解説 国語編